

## 個人研究経過報告

新谷 雅樹

SHINYA Masaki

### 1. 研究テーマ

ある江戸人の異文化理解(五)―佐羽淡斎(一七七二～一八二五)の総宜楼詩碑をめぐって。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、桐生の絹商人にしてアマチュアの漢詩人であった佐羽淡斎の異文化理解すなわち中国理解を、主に漢詩の側面から見てきたものである。主に「神奈川晩望」「金沢道中」「金沢総宜亭」の七律について論じてきたが、まだ「金沢総宜亭」は詩碑のあることを紹介しただけで、本格的な解釈にまでいたっていない。次号の紀要にこれを発表し、この連載を終えるつもりである。

ただ「神奈川晩望」に詩碑があるということを見逃したために、本詩は詳しく述べなかつた。この詩碑はいま捜査中である。『桐生市史』によると横浜の「台町一丁目」の個人宅にあるという。しかし台町界隈はマンションが林立し、いまだ発見にいたっていない。「淡斎七律」の「神奈川晩望」と詩碑のそれには異同があるのかどうかは判然としない。

### 3. 研究内容と進捗状況

すでに「神奈川晩望」の七絶を紹介した。さきに述べたことだが、『桐生市史』によると、本詩は横浜の台町一丁目にあるという。発見できない場合は、横浜の『金石志』をかたはしから調べて、その写真か翻字をさがすほかない。

「金沢総宜亭」については、その詩碑を発見し、写真におさめた。この詩の解釈はすでにできあがっているため、あとはワープロに入力するのみである。

### 4. 今後の展望

- ・ 佐羽淡斎の伝記を書く。
- ・ 淡斎と江戸詩壇・画壇・書壇の文人との交流を調査する。
- ・ 淡斎の文化的パトロンを考察する。
- ・ 淡斎以前の桐生市の文化的状況、淡斎没後のそれを比較して、江戸⇄桐生間のネットワークを調査する。
- ・ 江戸の名石工広群鶴(六世)と淡斎の関係を関連資料によって明らかにする。

## 個人研究経過報告

寺澤 君江

TERAZAWA Kimie

### 1. 研究テーマ

異文化理解に対する意識の向上を目指すための英語リーディング教材の工夫

### 2. 研究の目的

神奈川県の異文化理解支援事業のひとつとして、コミュニケーション支援ボランティア養成講座が開講されている。コミュニケーション支援ボランティアとは、「地域において、外国人観光客や外国籍県民等に対し、その文化的背景の相違なども理解したうえで、自ら積極的に声をかけるなど、外国語を用いてサポートする県民ボランティア」に取り組む人のことである。そういった志をもつ人を対象に、外国語を使ってボランティアを目指すための語学講座が開講されており、「英語圏の文化と社会 III・IV (テキストリーディング)」は、英語圏の文化や社会などの特定分野について、文書講読を通じて深く掘り下げ、理解を深めることを目標とした補完講座として位置づけられている。語学力に加え、様々な地域や国の文化的または社会的背景に関する知識や経験は、多様な背景をもつ人との交流においては、有用である。講座の果たす役割は、コミュニケーション支援ボランティアとしての活動に必要な異文化理解に関する知識や経験を補うことでもある。

本研究は、受講者の異文化理解に対する興味関心がより向上することを目的としたリーディング教材の工夫をテーマとしている。講座受講により、受講者の異文化理解に対する意識がどのように変容していったかを明らかにし、教材の効果を検証する。

### 3. 研究内容と進捗状況

コミュニケーション支援ボランティアとして英語を用いて活動する際のボランティアの対象は、多くがアジアからの外国人である。事実、神奈川県在住の外国籍県民の4分の3がアジア出身者で占められており、短期滞在者や旅行者もアジア出身者が多いと思われる。このような状況にあつて、コミュニケーション支援ボランティアに役立つ文化や社会の知識は、アメリカやイギリスだけでなく、公用語や共通語に英語が定められているアジアやアフリカなどのものも含むと考える。しかしながら、講座開始時に、受講者の興味関心を分析するためのアンケート調査を実施したところ、受講者の多くは「イギリス、アメリカ、ヨーロッパ」に対する興味関心が強く、コミュニケーション支援ボランティアの対象となり得るはずの「アジア」に対する興味関心は弱いことが数値に表れた。また、本講座以前の過去の英語学習の題材は、「文学、歴史」がほとんどであったことも、アンケート調査結果の数値に表れた。これまでの英語学習で扱った教材のトピックが、コミュニケーション支援ボランティアに役立つであろう、異文化理解に対する意識を向上

させるには十分ではなかったかもしれないと考える。これらのことより、本講座の教材における課題が明らかとなる。

まずは、異文化理解に対する興味関心が向上するための教授法や教材に関する先行研究の資料を収集する必要があり、先行研究での事例を講座で扱うリーディング教材の工夫に応用するため、現在、鋭意継続中である。また、研究の手順のひとつとして、全 10 回の講座の開始時、途中、および最終回終了時の 3 回、アンケート調査を実施する。これは、扱う題材や使用教材の効果を検証することを目的とし、受講者の異文化理解に対する意識の変容を分析するためである。現段階では、講座開始時のアンケート、および講座途中のアンケートを終えた。受講者の興味関心は、「欧米」から「アジア」へとシフトする気配を示している。さらに、「アジア」だけではなく「中東」「ラテンアメリカ」へも目が向けられ始めているようである。また、同アンケート調査より、「国際関係」「福祉関係」等の社会に関わる分野をテキスト教材のテーマとして取り上げてほしいという要望のあることがわかった。アンケート調査を継続して実施しつつ、講座時の受講者の実際の様子や反応や習熟状況を把握することにより、異文化理解に対する意識が向上するリーディング教材を工夫している。

#### 4. 今後の展望

英語リーディングの講座は全 10 回であり、年間に 2 講座が予定されている。今年度は、本研究を開始したばかりであり、講座はまだ最終回まで終えていない状況にある。よって、データも十分とは言えず、その分析や考察はかなり先になる。しかしながら、途中の段階ではあるが、受講者の興味関心の傾向をある程度は把握できている。それに基づき、アジアの文化や社会に対する関心を高めるような講座の導入やアプローチに取り組む。また、本講座以前の英語学習で扱った題材を繰り返すのではなく、日常生活や社会問題等、これまでにテキストとしてふれたことのない分野や領域を題材として受講したいという受講者の希望に応える教材を提供する。受講者のニーズに対応しつつ、異文化理解に対する意識の向上に役立つリーディング教材を工夫するために、来年度も引き続き、研究を進めていく。